



詳しくはこちらを参照
<http://toshima80.com>

紙芝居

「はたけものがたり」

You Tube にて上演中だよ!

<http://www.magonochikara.com/krocchi/>

にもアクセスしてね!



語り部の会「千早座」のみなさま

(左から): 高木継夫さん、中橋一雄さん、別所弘一さん、斎藤康芳さん、岡本まゆみさん、岡本省吾さん、海保洋一さん。

「はたけものがたり」の心をつつくる。みなさまの心をくつつける。紙芝居が千早の区民ひろばだと思ってるんだ。「ニヤ、ニヤアーン」。

「クロッチのハートも上手に接されたみたい?」



文=山下治子
写真=井伊杏

幸せまちをつくるんだいっ!

「区民ひろば」って、いいところだな

北風ふくなか、「区民ひろば千早」にたどり着いたクロッチ。温かく迎えられ、なんと「クロッチ」と名前をもらい、しっかりと聴いた話は、地域での「語り部」たちのすてきな活動。紙芝居の上演まで手伝ったよ。



「ここは千早、「ち」をとって、クロネコの「クロッチ」?」

ヒュー、ヒュー、ヒュー、ヒュー、ヒュー。ふらりと住宅街にやってきたクロッチ。角を曲がったところで、いきなり北風がクロッチの黒い毛並みをなびかせた。「さっむーっ。いくら毛皮だっていても、おいらはコート着てるんじゃないよ。ブルッ。そんな独り言をブツブツ言いつつ歩いていたら、



「お、かわいいクロネコだなあ。どこから来たの?」
と声をかけてきたおじいさんに会った。「ウム?」と最初こそいつものワルな目つきで見上げたクロッチだった。が、「なあんだ、寒そうじゃないか。さ、こっちは入っただけでなあって、ニコニコ顔で誘われちゃった。あ、そうだこの笑顔! 豊島区セーフコミュニティのシンボルだ。そうだったらいらでも、「ニヤアーン」とひと鳴きして、その温かい言葉に甘

えなくなるのは、あたりまえだよな。「さあ、こっちは。そうだ、なんか名前をつけてやるぞ。えっ?」

「おいらには「クロッチ」っていう立派な名前があるんだよ。おじいさん、変な名前くれるなよ。」「そつだなあ、クロネコだから、クロ! でいいか。ヒュー! 北風より寒いぜ!」

「ああまあ、高木さん。ネコちゃんとお遊んでるの」と、そこであらわれたおばあさん。
「そうか、このおじいさんはタカギサンというんだな。このクロネコちゃんに名前をつけてあげようと思ってるね」

「クロッチ、いいな。よし、それに決めよう。クロッチだ。いいか、キミはクロッチというんだよ。名前を呼んだら返事して。はい、クロッチ!」



「すごい! クロッチ。キミはただのノラ猫じゃないな。賢いぞ!」

「みんなの心の接着剤が「区民ひろば千早」なんだ

それにしても、ここが豊島区に22ある区民ひろばのひとつ「区民ひろば千早」だったんだ。おいらほとんどここを目指してきて迷っちゃったのさ。神様がタカギサンに会わせてくれたのかな。が、しかし。ホッと一息は一瞬だった。賢いと見込まれたおいらは、タカギサンから「クロッチ、

紙芝居が、祖父母世代と子ども世代をつないでいくよ!



「それって何ですか?」ってなる。目に見えるものでも、手にとってもわかるものでもないんだ。私が思うに、それは地域のみんなが何かに取り組んで仲良くなることじゃないかなって。じゃ、どうやって仲良くなれるか。それを考えて実行するのが、

「そこまでわかったか。賢いぞ。でな、子どもたちにこの地域の昔のことや大切なことを語ってほしい」と、千早の仲間語り部の会「千早座」を作ったんだ。紙芝居を物語から作って演じる。区内の小学校に行き行って上演し、クイズもして対話するから、よく聴いてくれる。種まきするつもりでやってるんだ。年寄りの責務なんじゃないかと思ってるね。「ニヤ、ニヤアーン、ニヤアーン」。

「さすがだ!」